



Be creative !



戦後80年 平和の俳句 (中日新聞)8月9日 詩や歌が平和の鐘を鳴らすのだ

夏休みに入り、前半戦を終えようとしています。学校全体の取り組みから言えば、一部ではありますが、私も吹奏楽部のサマーコンサートを皮切りに、和太鼓部の全国総文祭への付き添い、フィリピンスタディツアーの日本での取り組み、姉妹校 **SI** と鼓山高級中学、提携校ミンダナオ日系人会インターナショナルスクールの皆さんを迎えての集会、2年生・1年生の皆さんを交えての **World Youth Meeting** への参加、300人を超える参加者を集めた第2回公開見学会を終え、本日、8月9日を迎えています。間には、運動部の活動や試合は言うまでもなく、白熱したダンス部の大会などもあり、補習・文化祭などの取り組みも含め、全校の生徒が動き回る20日間であったと思います。この8月9日は、吹奏楽部の東海大会への選考会、演劇部の県大会が行われる日でもあります。夏休み前半の締めくくりです。みんな、頑張れ！心から声援を送ります。



ダンス部にエールを送ります





Chom-reap-sur

អស្មិយ្យ



私たちの町を紹介します



姉妹校・提携校の皆さんと友情を深めました！



和太鼓部 頑張りました！

金毘羅さん



ダンス部 頑張りました！



あの空と一緒に！気持ち晴れ晴れ！



吹奏楽部・バレー部頑張りました！



マウスピースでの
ユニークな演奏も！



8月9日、東海大会進出が決まりました！



See you again !



この夏、もう一つ忘れてはならないのは、今年が「戦後80年」にあたる年だということです。過去の歴史を振り返れば、今、私たちが交流を深めているフィリピンとも、台湾とも悲惨な歴史がそこにはあります。私もフィリピンに行くたびに人々のホスピタリティに感動をするのですが、同時に「なぜ、日本人に優しいのだろうか」という疑問もわいてきます。その疑問を出発点にして、改めて私たちの歴史の中に存在する戦争と、未来に向けて築いていかねばならない平和の課題について、自分の頭で、自分の言葉でその思考を深めたいと思います。

標題に挙げた平和の俳句は毎年、中日新聞が公募の形で取り組んでいるものです。この作品は、大府市在住の方の作品です。本日、8月9日の中日新聞に掲載されています。選考委員のいとうせいこう氏は「無力な詩が、武器を持たない歌が、しかし平和の鐘を鳴らす。なぜなら私たちが口ずさむから。歌い広めるから。」とその評を述べています。折しも今日は、長崎に原爆が投下された日。長崎市内では、犠牲者を悼む集いが各地で行われ、国内外8400以上の都市でつくる「平和首長会議」の総会が開会したとのこと。惨状を語り継ぐ8日のイベントでは日本原水爆被害者団体協議会(被団協)の田中重光代表委員(84歳)が、今も引き取り手のない遺骨が多数あるとして、「原爆は人間として死ぬことも生きることも拒否する。地球上に一発でもあるのは危険だ。」と訴えました。(8月9日中日新聞朝刊記事より)

『あと一週間はよ負けとったらみんな生きとった』…原爆投下、戦争は避けられなかったのか。不戦には何が必要なのか。考え続けることが私たちの務めなのだろう。(同新聞「中日春秋」の一部抜粋)

この通信を書いている時間、8月9日夜の7時半。平和の象徴とも言える東海市大池公園の花火大会が始まりました。夏休み後半戦が始まります。有意義な日々をと願います。